

## 8 呑川の橋・道路

青木・古海・安岡

### 工大橋

呑川（のみかわ）は世田谷区桜新町を水源とし、途中、柿の木坂支流、駒沢支流、九品仏川、湧き水等を合流し、目黒区、大田区と流れる川である。（以前、野美川、石川と呼ばれているところもあった。）

都立大方面から『目黒区みどりの散歩道 呑川・自由が丘コース』を下流に向かい歩いてくると東京工業大学の地域内に入る。そこには目黒区立十一中学校の運動施設[100m走路]なども

あり、その地下は新宿区落合水再生センターからの高度処理水が流れているところでもある。

進んで行くと東急目黒線、東急大井町線の[呑川橋梁]が見える。その線路の下には地下トンネル「呑川本流緑道工大橋通路」があり、ここを潜ると『工大橋』に出る。（ここはまだ目黒区）。呑川は今まで暗渠であったが、ここから川の流れ（開渠部）が見える。（ここまでは復元水路が少しあるが、本流・支流とも暗渠。各々[緑道]となっており整備されている。）

開渠になった説明が『清流復活掲示板』に書いてある。

工大橋の川の開渠部の所にゴムのカーテンが見えるが、これは[防臭ゴムシート]で下水道管内の

下水道臭を外部に拡散させないために設営されている。

現在の工大橋の所には昔『水神橋』と呼ばれる橋があった。右岸にすぐ[九品仏緑道]があり、約20m行くと、通称「緑が丘弁財天」がある。それが『水神橋』の名の由来と考えられる。



次の境橋まで約230mあるが右岸は目黒区、左岸は東京工業大学のグラウンド沿い途中まで目黒区で、その後大田区となる境界区域地点がある。右岸は次の『島畑橋』まで依然目黒区である。

**写真**

**人道橋（旧一本橋）**

石川台中学校の手前の石川公園（右岸）の近くにある人道橋。

右の写真は1951年（昭和27年）作製の橋で一本橋と呼ばれていた、ただ人だけが渡れる橋であった。現在の橋は橋長9.9m、有効幅長1.6mの橋だが、橋名のプレートはない。この辺の方は人道橋と呼んでいるが正式名は『三十八号橋』である。

**写真**

**柳橋** と **石川橋**

『柳橋』と『石川橋』は隣接しており、右岸には[中原幹線取水口（排水施設）]がある。

この施設は上流地で集中豪雨がおき一気に水位が上がると下流の水害の主因となることがあった為、1982年 中原街道地下に設けたトンネルを通して、多摩川丸子橋上流地点へと放流させるバイパス水路施設を作った。それにより洪水は減少した。

中原街道が呑川を渡る所に『石川橋』がある。呑川がこの付近では石川とも呼ばれていたこともあった。石川橋左岸中原街道わきに[石橋供養塔]があるが、もともと橋は土橋だったが、洪水のたびに流された為、1774（安永3）年、石橋に架け替えられた。その便宜を喜び建てられたのだが交通安全のためだけに設けられた供養塔はめずらしい。雪ヶ谷村、円長寺の日善が供養導師をつとめ、浄心以下5名のものが浄財を出しあって供養塔を建立した。

**清流復活掲示板** もある。

中原街道は元々、江戸と相州を結ぶ主要街道で



あった。

徳川家康もこの街道を通り江戸に入ったと言われているが、その後東海道が整備されると、参勤交代等の公用の役割は特別の場合を除きなくなり、明治時代まで、脇街道として物資の輸送等で賑わっていた。しかし道幅が狭く、大正期になり地元有力者や住民らの努力によって、この起伏を平坦にする改修に着手、大正十二年（1923年）に完成した。この時作られた、**[街道改修記念碑]**が洗足池のところにある。

昭和十年五月（1935年）には丸子橋が完成、順次道幅も広げられ現在の道路になった。

名前の由来は江戸時代に江戸城虎ノ門と平塚の中原御殿（将軍の別荘）を結ぶ道だった事に由来するが、三田二本榎猿町を通ることから『**猿町街道**』、相模国に抜けるから『**相州街道**』、平塚で生産されたお酢を運ぶ『**お酢街道**』とも呼ばれていた。

尚地元では、長原を通るから『**ナガツパラ街道**』とも言っていた。



## 写真

### 一ノ橋 と 二之橋

大田区に入ってから呑川は開渠となっているが、例外としてこの『一ノ橋』と『二之橋』との間は暗渠になっており、そこには**[一の橋児童公園]**がある。

橋名の書き方で『一ノ橋』の“の”はカタカナの“ノ”で、『二之橋』の“の”は漢字の“之”となっている。その先は東急池上線の鉄道橋である。左に行くと石川台駅（1927年開業）、右に行くと雪谷大塚駅（1923年開業）である。

## 写真